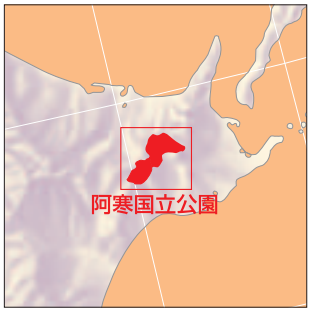
国立公園
ガイドブック

パークガイド

# 阿寒・摩周

## 阿寒国立公園




一般財団法人 自然公園財団

阿　寒　国　立　公　園

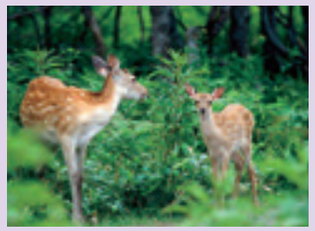
パークガイド

# 阿寒・摩周

あかん・ましゅう

## 目　次


**阿寒・摩周の四季** …… 2
◆破調の美　渡辺 淳一 …… 2
**阿寒国立公園のプロフィール** …… 10
◆阿寒・摩周へのアクセス …… 11
**阿寒国立公園索引図** …… 12
**阿寒湖畔エコミュージアムセンター** …… 14
**ボッケ自然探勝路**を歩く …… 16
◆エゾシカの食害 …… 17
◆森の小道 …… 18
**阿寒湖の豊かな生態系** …… 19
◆外来種の脅威　ウチダザリガニ …… 19
**阿寒湖温泉**に泊まる …… 20
◆阿寒湖温泉の由来と歴史 …… 20
◆アクティブに体験 …… 21
**特別天然記念物 阿寒湖のマリモ** …… 22
**白湯山トレッキング** …… 24
**オンネトー周辺ガイド** …… 25
**オンネトー・トレッキング** …… 26
雌阿寒温泉～オンネトー／湯の滝コース
◆冬のオンネトー …… 27
**阿寒湖周辺ガイド** …… 28
阿寒湖畔展望台／滝口／太郎湖・次郎湖／滝見橋／鶴見峠／双湖台・双岳台
◆阿寒湖の生い立ち …… 29
**雄阿寒岳登山** …… 30
◆木禽岳 …… 30
**雌阿寒岳登山** …… 31
◆ヒグマに注意 …… 31
**摩周湖景観ガイド** …… 32
**摩周岳登山** …… 34
**摩周湖の透明度** …… 35
**屈斜路湖とその周辺** …… 36
◆屈斜路湖に見られる小さな球体・マリゴケ …… 36
◆砂湯キャンプ場 …… 38
**御神渡り現象** …… 39
**和琴半島自然探勝路**を歩く …… 40
◆和琴フィールドハウス …… 42
◆和琴キャンプ場 …… 42
**釧路川カヌーの旅** …… 43
**川湯エコミュージアムセンター** …… 44
◆川湯パークサービスセンター …… 45
**つつじヶ原自然探勝路**を歩く …… 46
◆つつじヶ原の土は眠らない …… 48
**硫黄山** …… 49
**川湯温泉**に泊まる …… 50
◆川湯温泉駅 …… 50
**パークボランティアの活動** …… 51
**動物図鑑** …… 52
**野鳥図鑑** …… 53
**花図鑑** …… 54
**阿寒国立公園物語** …… 60
主要機関・交通機関・観光問い合わせ一覧 …… 64



# ボッケ自然探勝路（約1.5km／約1時間）

**ボッケ自然探勝路は、阿寒湖畔エコミュージアムセンター裏手にあり、温泉街に隣接していることもあって気軽に楽しめる。ここには二つのコースが整備されており、それぞれ違った表情の自然の森が堪能できる。一つは、阿寒国立公園の特徴でもある、森と湖と火山を体感できる湖岸コース。もう一つは、阿寒の森の特徴である針広混交林の森を歩く「森の小道」コースである。ここでは、起伏もなく気楽に歩ける湖岸コースを紹介しよう。コース沿いの森はエゾマツ、トドマツといった北海道を代表する針葉樹と、カツラをはじめ、ハリギリ、ウダイカンバ、ミズナラ、オヒョウ、シナノキ、ヤチダモ、イヌエンジュ、イタヤカエデなど多くの広葉樹で構成されている。そして、その林床にあるさまざまな植物とそこにすむ多様な動物が、それぞれ互いに影響し合って成り立つ自然性豊かな森である。**

## 1 移ろうボッケの花々

ボッケの森では五月のゴールデンウィークに合わせて歩道沿いの雪も解け、明るい林床にエゾエンゴサクがいち早く春を告げるように咲き始める。続いてヒメイチゲがちらほらと見られ、五月末頃には一面に白いニリンソウが咲き乱れる。

六月に入るとコウライテンナンショウやエゾノレイジンソウ、バイケイソウといったあまり目立たない色の花が見られるようになる。広葉樹が芽吹き、明るかった林床も薄暗くなる七月にはキツリフネやオオウバユリ、エゾトリカブトと夏の花に咲き替わっていく。花の移ろいで季節が感じられるのも、散策の楽しみの一つである。

ニリンソウ

エゾエンゴサク

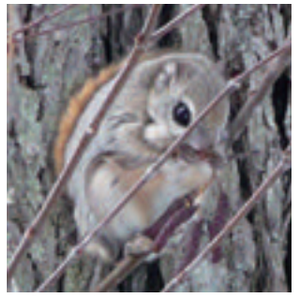
## 2 森の住人たち

阿寒湖周辺の森には、ヒグマやエゾシカなどの大型の動物からネズミの仲間まで、多様な動物が生息している。

エゾリスは体長四十センチメートルほど。丸い目とピンと立った耳が特徴で、両前足で餌をおさえて食べる姿はとても愛らしい。主に樹上で生活をしているが、移動時と食料の確保や保存の際に地表を走り回る。このあたりの森では、オニグルミやミズナラの実（ドングリ）、エゾマツの実などを餌としている。

エゾモモンガはエゾリスに比べると小さく、体長二十五センチメートルほど。体の割に大きな目がとてもかわいく、前足から後足にかけてムササビのような飛膜がある。餌はトドマツの葉や、樹木の花、ハンノキの実などで、夜行性のためあまり見ることができないが、広葉樹の葉が落ちた冬場には、午後から巣穴の周辺を滑空している姿を見られることがある。

エゾリス



エゾモモンガ

## 3 森の再生

このあたりの森は二次林だが、自然林で百年以上の年月を経て現在のような姿に成長した。トドマツを主とした森としては、ある程度成熟した森といえる。

年老いた大木が風などで倒れると、開けて日当たりのよくなった場所（ギャップ）に生えた幼木が生長して穴を埋めるが、生長の遅い針葉樹は、ササや草のために落ちた種子に日が当たらないため、実生による更新はむずかしい。しかし、倒れた木の上に落ちた種子は、倒木の含む水分や養分をもとに日光を浴び、生長する場合があり、これを「倒木更新」という。

この探勝路の森でもトドマツなどが一列に並んで生えている場所があるのは、倒木更新によると考えられる。

なお、長い年月のうちには台風や大雪などによって広い面積にわたって一度に大量の木が失われ、森全体が再生の過程を歩むこともある。

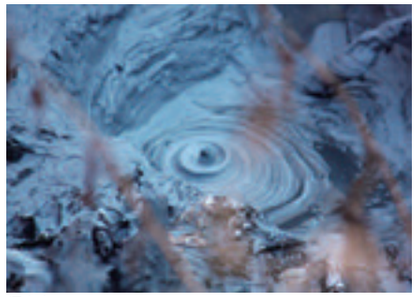
倒木更新によって一列に並ぶトドマツ

## 4 ボッケ

このあたりまで来ると硫黄の匂いが漂っている。これがボッケの匂いである。

ボッケとは、アイヌ語の「ポフケ（煮え立つの意）」からつけられた地名で、柵の中に見られる「泥火山」のことを指す。泥火山は、地下から泥が火山ガスとともに吹き出て地上に盛り上がったり、あぶくの膜を破裂させたりする現象のことで、その際に火山ガスに含まれた硫化水素の匂いがするのである。噴出する熱水の温度は九十七℃前後もあり、危険なので柵の中には絶対入ってはならない。

また、周辺は地熱があり、冬季間でも雪が溶けて積もらないため、マダラスズやハラオカメコオロギなどが隔離的に分布している。



泥火山

## 5 阿寒カルデラの外輪と雄阿寒岳

ボッケ桟橋に立つと、東側に美しく雄大な雄阿寒岳が望まれる。視線を左側に移していくと、いくつかの山々が湖をはさんだ向かい側に見える。これは、おおむね阿寒カルデラの外輪といえるが、雄阿寒岳については、阿寒カルデラ内にできた中央火口丘であるので、裏側に二つ湖をもち、その先に本物の外輪がある。

この桟橋は、美しい阿寒湖の自然と阿寒カルデラの広がりを実感できる展望ポイントである。

## 6 エゾマツとトドマツ

エゾマツとトドマツは、ともに北海道を代表する針葉樹である。探勝路の途中で、どちらの木もたくさん見ることができるが、よく似ているので注意して見てみよう。

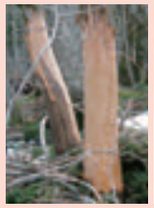
トドマツ（左）とエゾマツ（右）

## エゾシカの食害

エゾシカは、明治期に入り開拓のため移入してきた和人による乱獲と、明治12年の異常気象による豪雪で絶滅寸前となった。このため、明治23年から昭和31年まで禁猟となった。

平成10年からは北海道の「エゾシカ管理計画」により管理されているが、昨今、エゾシカによる人間生活に関する被害は増えている。自動車や列車との接触事故や市街地へのエゾシカ出没などのほか、農林産物の被害も多く、社会的に大きな問題となっている。

阿寒湖周辺においても森林の被害は避けられない。特に、ボッケ周辺は地熱があり、ササなどが雪に覆われる時期が短く、エゾシカの越冬には最適で、多くのエゾシカが人間を恐れずに冬を越している。



また、餌には不自由しない。周辺はエゾシカの好むオヒョウやイチイ、シウリザクラなどの樹木が多く、最近ではエゾシカがそれらの樹皮を食べることにより、枯損木が目立つようになっている。

これらの樹木を食害から守るために、阿寒湖畔エコミュージアムセンターでは、平成17年度から（財）前田一歩園財団などの協力を得て、毎年12月にエゾシカの樹皮食い防止用ネットの設置を行っている。

現在、ボッケの森ではこれらの対策により、母樹となる木は守られているが、幼樹や稚樹はほとんど見られない状況である。